

■第18回高次脳機能障害

リハビリテーション講習会

日時: 2022年1月14日(金)～27日(木) Web開催

昨年に引き続き今年度もWeb開催を致します。
上記の期間内はいつでもご視聴いただけます。

※詳細は下記ホームページにて掲載

■高次脳機能障害地域支援者向け

連続講座2021

第3回: 2021年12月17日(金)～23日(木) Web開催+集合

第4回: 2022年2月16日(水)～22日(火) Web開催

※詳細は下記ホームページにて掲載

■2021当事者・家族のための

高次脳機能障害勉強会

日程: 2022年1月19日(水) Web開催+集合

※詳細は下記ホームページにて掲載

■第5回高次脳機能障害就労支援研修会 及び職業リハビリテーション研修発表会

日程: 2022年2月1日(火)～7日(月) Web開催

※詳細は下記ホームページにて掲載

■第4回小児高次脳機能障害支援者向け 研修会

日程: 2022年2月3日(木)～9日(水) Web開催

※詳細は下記ホームページにて掲載



千葉リハホームページ

<https://www.chiba-reha.jp/koujinou-center/guide/workshop/>

編集後記

■先日、某研修で“チーム”という言葉の定義を聞く機会がありました。[チーム]とは、ある目的に向かって共に進む集団であり、そこに集うメンバーの数以上に相乗効果で付加的な成果が生まれる状態なのだそうです。県内のさまざまな地域で、そんな高次脳支援チーム作りが進むといいですね。千葉リハ高次脳支援センターの1メンバーとして、地域のチーム作りには協力していきたいと思っています。(四代目H)

■年末に京都・清水寺でその年の世相を表す漢字一文字を発表していますが、2021年は「？」どんな漢字になるのでしょうか。今年はコロナ禍という言葉を痛いくらい使った年でもありました。語源『禍福は糾える縄のごとし』。幸福と不幸が交互になって縄のようになっていくという意味です。幸福は禍の元になり、禍が幸福にもなる。漢字一文字は世相を表すとともに、来年の出来事を清め、明るい新年となるようお願いがこもっている、としたら…私なら「禍」とします。あなたはどんな一文字を考えますか？さて、今号の揭示板は『地域支援』を取り上げました。コロナ禍で当たり前になったオンラインですが、来年は皆さまとお会いできる機会が多くなることを願っています。(Y)

こ～じのう

揭示板

2021.11 vol. 45

発行日 ■ 2021年11月30日

発行 ■ (社) 千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハセンター
千葉市緑区普田町1-45-2 Tel. 043-291-1831(代) 内198

発行責任者 ■ 地域支援センター 高次脳機能障害支援部
部長 長谷川 純子 (高次脳機能障害支援センター)

<http://www.chiba-reha.jp/> ※ホームページからご覧いただけます



第18回高次脳機能障害リハビリテーション講習会

2022年1月14日(金)～27日(木)

受講対象者 当事者、当事者家族、行政機関、医療機関、地域包括支援センター、就労移行・就労継続機関等の参加者

Web 開催

オンデマンド実施
※期間中は
いつでも視聴可能

地域における 高次脳機能障害とは ～神奈川県を取り組みを通して～

講師 瀧澤 学 氏
(たきざわ がく)

神奈川リハビリテーション病院
総合相談室 総括主査
地域リハビリテーション支援センター
高次脳機能障害支援室 主査

講師の瀧澤学先生は、神奈川県総合リハビリテーション事業団のソーシャルワーカーとして、長年にわたり高次脳機能障害者の支援に携わっていらっしゃいます。H19年から現在まで神奈川県リハビリテーション病院および支援センター高次脳機能障害支援コーディネーター、令和2年4月からは日本高次脳機能障害者の会の顧問としても活躍されています。

Web 講習会のご案内

◆YouTube を利用した Web 配信です。インターネット回線とインターネット接続ができるパソコン、スマートフォン、タブレットをご用意ください。

◆申込が必要です。申込メールアドレス宛に視聴専用のホームページ URL をお送りします。詳細は裏面をご覧ください。

◆配信動画を視聴するために特別なソフトやアプリケーションのダウンロードは不要です。

事務局

千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター

この講習会は(一社)日本損害保険協会の助成を受けて実施しています

千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援普及事業広報誌

こ～じのう

揭示板



2021.11

- 特集 当事者を地域で支えるためのネットワーク作り
- 支援センターだより
- 全国の動き・イベント講習会報告

こ～じのう揭示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関わる情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。



「千葉県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業について」

千葉県健康福祉部障害者福祉推進課

課長 大野 義弘

日頃より本県の障害者福祉施策の推進にご理解とご協力をいただきまして、御礼申し上げます。

今年4月に障害者福祉推進課長として着任した大野義弘と申します。

さて、本県では、千葉リハビリテーションセンター(千葉市)、旭神経内科リハビリテーション病院(松戸市)、亀田リハビリテーション病院(鴨川市)の3箇所において高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業による支援拠点を設置し、高次脳機能障害のある方への機能回復・社会復帰に向けた訓練、就労支援、情報発信、研修等を行ってまいりました。あわせて、各支援拠点機関に支援コーディネーターを配置することで、地域特性を踏まえた、より身近な相談窓口としての体制を整備してきたところで。

令和2年度より、新たに総合病院国保旭中央病院(旭市)に支援拠点機関を設置し、4箇所の支援拠点機関を中心に、高次脳機能障害に対する理解の普及・啓発を図るとともに、高次脳機能障害のある方及びその家族が早期に専門的な相談支援につながるよう各地域におけるネットワークの拡大・強化に取り組んでおります。

高次脳機能障害は、身体的な後遺症がない場合、外見から障害が分かりにくく、障害の内容や程度も様々です。各支援拠点機関において、支援経験や実績が培われ、普及啓発や研修などを進めていく中で、高次脳機能障害に関する理解や支援協力機関の輪が着実に広がっているところではありますが、高次脳機能障害のある方の地域生活の安定や就労定着等に向け、さらなる体制の充実が必要であると考えております。

今後も、高次脳機能障害のある方が、地域において、その人らしい生活を送ることができるよう支援の充実にも努めてまいりますので、引き続き、御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。



千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク担当会議

2021.8.25
Web開催

本会議は当センターにて実施されましたが、直接参加とオンライン参加のハイブリッド開催となりました。参加機関は県と4つの支援拠点機関の担当者です。会議は、各拠点機関の近況報告をし、コロナ禍での対応状況を共有しました。今年度の取組みのひとつとして、支援拠点機関同士による勉強会を企画する事を検討し、具体的にはWebによる事例検討の実施を行うことで意見がまとまりました。また、家族会も集まりにくい状況にあるため、家族会に対し、支援拠点機関がいまできるサポーター的な関わりについて意見交換する場面もありました。今後もネットワーク担当者間で連携をはかり、千葉県の高次脳機能障害支援を具体的にすすめていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

第1回千葉県脳損傷者運転支援連携会議

2021.10.28
Web開催

10/28(木)に初回の千葉県脳損傷者運転支援連携会議が行われました。千葉県内で高次脳機能障害者に対して運転支援を行っているリハ関連病院13施設の参加がありました。本会議は高次脳機能障害者に運転支援を行っている医療機関同士の連携促進はもちろんですが、医療機関と公安委員会(免許センター)や教習所など他機関との連携を強化していくことも目的にしています。第1回目の会議では、現状の課題と今後の方向性を確認しています。第2回目は来年2月くらいに開催予定で、千葉免許センターからもご参加いただき、医療機関と免許センター双方の現状を知るところから連携を深めていきたいと思っています。

関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

2021.11.5
Web開催

11/5(金)オンラインにより会議が開催され、各県から64名の参加がありました。前半は国立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援センターの深津玲子センター長より、高次脳機能障害に係る調査研究についての情報提供があり、現在進行中の厚生労働省科学研究の進捗報告として、障害福祉サービス現場の視線者養成のための支援者養成カリキュラムおよびテキスト開発のための研究が紹介されました。今後、作成したカリキュラムに基づきモデル研修を実施し、効果を分析していくそうです。後半は各県での高次脳支援の課題に対して意見交換が行われ、医療から地域への移行、多機関・多職種の連携、高次脳支援に関わる実態把握や情報の活用法などについて意見交換があり、「支援の連携」が各県共通の課題として挙げられていました。



▲基調講演をする国リハの深津センター長



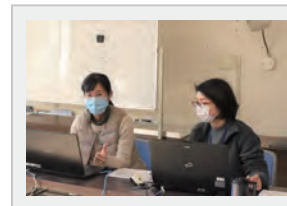
2021当事者・家族のための高次脳機能障害勉強会 【第1回 易疲労・注意障害・情報処理力の低下・記憶障害】

2021.7.21 14:00-15:15 主催:千葉リハビリテーションセンター

Web開催・集合研修



▲オンライン勉強会を閲覧する更生利用者様(2020年度の様子)



▲Web配信の様子

去年度、初めて開催した当勉強会を今年度は2回に分け、Web開催に加え、集合研修でも開催しています。第1回目の講義は、易疲労・注意障害・情報処理力の低下・記憶障害でした。参加者の詳細は、Web52名、更生園57名、集合研修10名でした。集合研修では、ひさしぶりの対面での研修ということもあり、少し緊張しましたが、Webではなかなか見ることができない皆さんの反応を見ることができ、とてもよかったです。みなさん集中して聞いてくださっていました。内容では、具体的な説明を心掛け、基本的な症状に加えて、それぞれの症状の「あるある」をお伝えしました。「それぞれ具体的に細かく対応を教えていただけたので、自分の取るべき行動がイメージできた」「基礎的な内容も含めて体系的に理解できた」などの感想が聞かれました。第2回目は、1月に予定されており、遂行機能障害・病識の低下・社会的行動障害について講義を行う予定です。当事者やご家族にとって、伝わりやすいような説明をしたいと思っておりますので、ご参加して頂けたら幸いです。

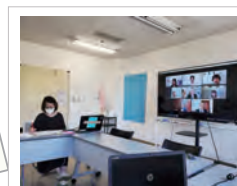
日本高次脳機能障害友の会 2021年オンライン全国大会

2021.10.2 9:30-14:30 主催:日本高次脳機能障害友の会

Web開催



▲シンポジストとコーディネーター



▲当日のオンラインの様子

日本高次脳機能障害友の会全国大会が、2021年10月2日に初めてオンラインで行われました。600人を超える方の参加申し込みがあり、当事者・家族・支援者にとって待望されていた大会でした。午前中は、「高次脳機能障害支援法制定に向けて」シンポジウムが行われ、5名のシンポジストが、医療や家族などの立場から法整備を望み支援の拡がりに期待するとの話がありました。午後は、岩手、富山、鹿児島の家協会からコロナ禍での活動紹介、アンケートやピアカウンセラー講座の実施、家族会の工夫や継続の難しさなど抱える課題を含め報告がありました。その後、集合研修となっていた千葉、香川、和歌山の会場ともつなぎ、個々の会場で当事者、家族、支援者が一緒の環境から参加されました。高次脳機能障害者の支援とは、様々な人が関わることで成り立っていると改めて感じられました。今大会に参加し、改めて高次脳機能障害の支援の拡がりや継続の必要性を感じ、日頃の支援について振り返る機会となりました。

当事者・家族を地域で支える

高次脳機能障害と付き合いながらの生活は病院を退院してからが本当のスタートです。そして、そのとき頼りになるのは同じ地域に暮らす支援者の方々です。困り事は千差万別、さまざまな課題に地域支援者がネットワークを作り、互いの得意分野を活かしあえたなら…市川市の取り組みからはそんな支援の可能性が見えてきます。

2005年頃

きっかけ

2005年頃から高次脳機能障害の相談が目立つようになったことがきっかけでした。その相談内容は比較的若い世代の方から日中の居場所を探しているというものでした。高次脳機能障害の自己体は昔からありますが、障がいがあると言われても通じなかったり、当事者、ご家族、支援者の皆さまが苦勞をされてきた現状がありました。そして、その当時、千葉県では高次脳機能障害支援普及事業が開始されていたこともあり、千葉リハビリテーションセンターの高次脳機能障害支援センターに協力いただき、同年10月に市川市で講演会を開催しました。

今後の課題

市川市において高次脳障害児者サポート会議は、自立支援協議会の周辺会議として位置づけられています。サポート会議の役割は、地域で、高次脳機能障害の児者を支援している支援者が抱え込んで孤立しないための場になることです。また、事例を皆と一緒に検討することで知識や技術、そして支援者同士の繋がりを得られる場になればと考え実施しています。15年続いています。月末の夜に実施していることもあり、人によっては興味があっても参加しにくい時間帯で、参加する支援者が固定しがちです。支援者同士の繋がりを広げるためにもサポート会議の周知に努め、参加する支援者を増やしていくことが課題と考えています。興味を持たれた支援者の方、現在支援しているケースの件で困っている方など、お時間があれば、市川市役所障がい者支援課までご連絡下さい。

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/wel05/1111000082.html>

■デイサービス テイクオフ(木村氏)

市川市高次脳サポート会議に参加させていただいたきっかけは、クモ膜下出血後の高次脳機能障害を呈した50代の男性について、今後介護保険サービスでどのようにサポートできるか悩んでいたことでした。参加したところ、介護保険以外の市のサポートや県のサポート、千葉リハさんからのアドバイスなどたくさんの助言を頂きました。家族会も紹介して頂き、介護の分野にとどまらず地域の繋がりを感ずることができました。地域で高次脳機能障害で悩んでいる方や家族、サポートしている方々に、暮らしている市川市で少しでも役に立てればと継続して参加させていただき、勉強させて頂いています。

講演会は予想を上回る参加者があり、講演会後に、当事者やご家族が話をする場を設けました。その様子から、当事者やご家族にとって思いを話し合える場(家族会)が必要と実感し、2006年1月に「高次脳機能障害の当事者・家族の集う会」を始めました。

2006年1月

高次脳機能障害児者サポート会議の主な内容

- 1.事例検討会
- 2.地域の課題を共有(アンケート実施など)
- ※
3.家族会「こ〜じ・いちかわ」の活動サポートなど



▲オンライン参加されたサポートメンバー

■市川市身体障がい者福祉センター

当センターにも、高次脳機能障害のある利用者が何名おられ、サポート会議の事例検討にて、千葉リハの皆様は、様々な観点からアドバイスをいただけてきました。取り組みのアイデアや専門的な知識を得られ、大きな学びとなっています。その実践により、ご本人やご家族にも安心してもらうことが出来ています。また、当センターもサポート会議の事務局を担当していますので、定期的に事務局会議を開催し、進め方について協議をしています。地域の課題を解決していくため、市立支援協議会を通じて、施策への反映をはかっています。こうした点についても、千葉リハの皆様からアドバイスをいただければと思います。

■地域活動支援センター ココ(永井氏)

ココとしてサポート会議は、
1.地域の高次脳機能障害の方々の実態や事例を知る
2.自分達の活動や情報を発信させて頂ける
3.困りごとを相談ができる
4.会議に参加されている。医療、介護、障害、行政の方々となることが出来る
機会として大変有意義な会議と感じております。
また、行政が設置されている数ある会議の中でも、一つの障害に特化した会議は珍しく、大変貴重な場を頂いております。家族会について等、皆様と協力して活動していければと思います。

2006年秋

立ち上げ

開始した「高次脳機能障害の当事者・家族の集う会」は、家族会の立ち上げまでには至りませんでした。別の形で当事者を支援できないかと模索する中から、支援者のネットワーク作りを支援することが当事者支援につながるのではないかと考えはじめ、2006年秋に高次脳機能障害の児者サポート会議を立ち上げました。



現在

現在はサポート会議メンバー(下)と小集団集合、オンラインを併用しながら千葉リハの支援コーディネーターから支援方法やアイデア、ヒントをいただきながらみんなで事例検討を行っています。



▲千葉リハはアドバイザーとして参加

高次脳機能障害児者サポート会議メンバー

基幹相談支援センター「えくる」、市川市身体障がい者福祉センター、市川市福祉部障がい者支援課、障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター、医療機関、介護保険サービス事業所、高齢者サポートセンター、訪問看護事業所など高次脳機能障害の児者を支援している地域の支援者



■タムス市川リハビリテーション病院(SW渡部氏)

会議での連携、情報共有、千葉県千葉リハビリテーションセンターの皆様からのご助言より、専門職として学ばせていただくことが多く、臨床で実践につながっていることも多々ございます。支援者の皆様とのネットワーク作りの場にもなっていて、地域課題を客観的に捉える機会をいただいております。今後も会議を通じて、地域の方々の生活しやすさを皆さんと考えていきたいと思います。



地域支援の一部を紹介します!

支援センターの役割の一つとして『地域支援』があります。地域で支えている高次脳機能障害者の支援が充実するように、地域支援機関の人たちとともに具体的な支援策を考えています。今号の支援センターだよりは、千葉障害者キャリアセンターが開催する『千葉市圏域意見交換会』。千葉障害者キャリアセンターのセンター長 藤尾様からいただいた寄稿文をもとに掲載します。藤尾様ありがとうございます。



千葉障害者キャリアセンター
藤尾健二氏

千葉障害者キャリアセンターの紹介

千葉障害者キャリアセンターは、主に障害のある方の就労支援および企業の障害雇用支援を行う「障害者就業・生活支援センター」になります。障害保健福祉圏域ごとに設置することとされており、千葉県では16圏域すべてに設置されています。(全国336センターR 3.4.1現在) 就労と生活を一体的に支援することを目的としており、特に生活支援においては、地域の関係機関との連携によりご本人をサポートしています。

千葉市圏域地域交換会とは?

当センターでは年間を通じて地域ネットワークの活性化・維持を目的として、「千葉市圏域地域意見交換会」を開催しています。千葉市内の障害福祉サービス事業所(就労移行支援事業、就労継続支援A型等)、特別支援学校、管内ハローワーク、障害者職業センター、障害者雇用企業等、毎回80名前後の方々にご参加いただき、地域課題等について意見交換をおこなっています。

今年度の第3回の開催にあたり...

8月24日(火)に、高次脳機能障害支援センターより長谷川純子様(高次脳機能障害支援部長)と田中葉子様(主任ソーシャルワーカー)をお招きして「令和3年度 第3回 千葉市圏域地域意見交換会」を開催いたしました。お二人には基調講演として、「高次脳機能障害者の支援について」基礎知識から支援のポイントについて事例を含め1時間ほどお話いただきました。大変有意義な学びの場となり、開催後のアンケートには、「高次脳機能障害の障害特性、支援のポイント、神経ピラミッドの基本的なお話、環境調整の大切さを再認識出来る大変貴重な講演だった。」「高次脳機能障害について症状や対応策を解り易く説明いただき勉強になった。」といった意見が数多く寄せられました。今回で登壇いただきました長谷川様、田中様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



▲基調講演をする長谷川(右)、田中SW



▲オンライン開催で行われた様子
(8/24千葉障害者キャリアセンター)

旭神経内科リハビリテーション病院

今年度の事業は「コミュニケーション」を中心テーマにしております。手始めに9月中旬「脳損傷後のコミュニケーション障害」という題でオンライン講習会を実施し、40機関以上90名以上にご参加いただきました。続いて11月中旬に帝京平成大学の廣貴真弓教授をお招きし、「明日から役立つコミュニケーション支援」という題でオンライン講演会を開催します。また同時期に、「高次脳カフェ」改め「Webお茶会」も開催します。今回は事業所同士を繋ぎ、当事者・ご家族の方々の交流を主目的とし、オンラインで出来るレクリエーションを中心に実施する予定です。そして集団訓練「さくらの会」においても、「コミュニケーション障害」の講義を実施しました。



▲オンライン講習会の様子(上下)



亀田リハビリテーション病院

10月2日(土)に日本高次脳機能障害者の会オンライン全国大会に参加しました。家族会より亀田リハビリテーション病院をサテライト会場にして参加できなかったかと打診がありました。友の会に相談をし快諾をいただきました。そしてこのサテライト会場が全国大会で中継されることになり、当日は、家族会会長にインタビューを行いとても貴重な体験ができました。中継は3か所でしたが、8か所のサテライト会場があったそうです。今回の体験を通して、Web環境の課題はありますが、新たな可能性お秘めていることを感じました。似たような状況の全国の家族会と近い将来、直接交流を目指したいと思っています。



▲日本高次脳機能障害者の会オンライン
全国大会のサテライト会場になった亀田
リハ

総合病院 国保旭中央病院

12月開催予定の研修会に向けて準備を進めています。緊急事態宣言が解除され、感染者数もかなり減少している状況から、この原稿を書いている10月末時点では、対面での開催を予定しております。コロナ禍で急速に広まったオンラインでの研修開催、会場までの移動や時間を気にせず気軽に参加できることはとても便利で魅力的ではありますが、一方で、これまでの対面での意見交換やグループワーク等の良さを改めて感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか?久しぶりに対面参加者の皆さんとお会い出来ることを楽しみにしております。感染状況が落ち着けば、対面で行っていたこれまでの活動が徐々に再開されるといいますので、新しい生活様式として定着しつつあるオンラインでの活動も旨く活用しながら、支援普及活動を進めていければと考えています。



▲旭市内の紅葉スポット「龍福寺」

千葉県内には千葉リハの他に、支援拠点機関が3つあります。毎月3つの支援拠点機関の取組みや情報を掲示板のなかで発信していきます。